



7/3 アマビエの光でコロナ退散！



金栄小学校で7/3～29、疫病退散のご利益があるとされる妖怪「アマビエ」の絵をあしらった電灯「アマビエの樹」が点灯され、色とりどりの光が校庭を彩りました。

新型コロナウイルス感染症の収束を願い、放課後子ども教室などを運営している「かるがもクラブ実行委員会」が企画。児童が思い思いに描いたアマビエの袋にLED電球を入れ、住民や児童らが校庭の樹木に約300個を飾り付けました。

夜には地元住民らが一目見ようと立ち寄り、幻想的な光景に息をのんでいた。

7/9 トラフグ放流「元気で帰って」



垣生小学校の6年生約40人が、垣生海岸でトラフグの稚魚2,500匹を放流しました。

子どもたちに魚に親しんでもらおうと、市漁業振興対策協議会が毎年実施。トラフグは新居浜の名物料理「ふぐざく」の食材として活用されています。同会によると、放流された稚魚は産卵のため、約3年で再び瀬戸内海に戻るそうです。

児童は見慣れない稚魚に興味深そうに観察。浅瀬で勢いよくバケツを傾け、次々海に放ちました。村上真士君は「大きくなって元気で帰ってきてほしい」と笑顔をのぞかせました。

7/23 描いた絵で未来の「街」づくり



体験型のデジタルアート展「チームラボ お絵かきタウン&ペーパークラフト」が1カ月にわたり、あかがねミュージアムで開かれました。

ビルや宇宙船などの用紙に絵を描き、スキャナーで読み込むと、壁全体に映し出されたデジタルアートの「街」に立体で出現するという作品。参加者には、描いた絵のペーパークラフトが出来上がる展開図も贈られました。

開幕初日に訪れた子どもたちは、色鮮やかに登場した自分の絵に大はしゃぎ。手をかざして動かす仕掛けもあり、時間を忘れ、夢中で遊んでいました。

8/8 写真で伝えるまちの魅力



写真展「ニイハマ写真部 Exhibition」が8/8～28、イオンモール新居浜で開かれ、買い物客らの目を楽しませました。

「ニイハマ写真部」は、市民と共に写真を通して地域の魅力を発信しようと、平成30年にスタートした取り組み。SNSでの発信、写真家のレクチャーを受けながら市内を散策する「まち歩き撮影会」などを行っています。

写真展は、8回実施した撮影会の参加者の作品の一部を展示。写真映えるスポットや歴史情緒を感じさせる風景など多彩な作品が並び、家族連れらがじっくりと見入っていました。